

(様式1) 実施報告書-プログラムB

1 補助事業者情報

団体名	神戸市
-----	-----

2 事業の概要

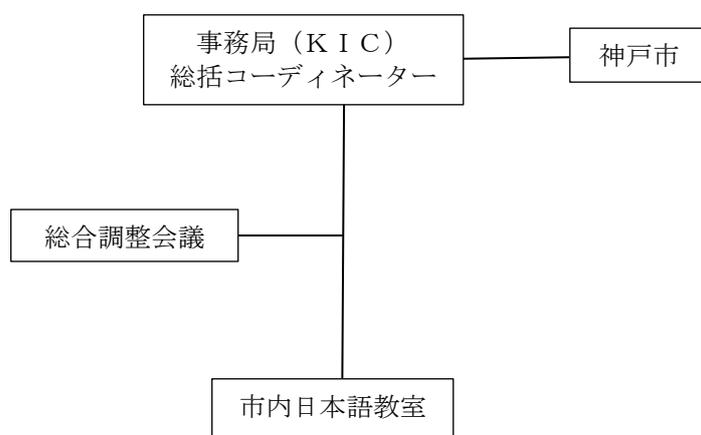
1. 事業の名称	神戸市における地域日本語教育体制整備事業
2. 事業の期間	令和2年4月1日～令和2年3月10日
3. 事業実施前の現状と課題	<p>神戸市には、約48,000人(平成31年3月末)の外国人が居住しており、近年、ベトナム人の急増など、在留外国人は増加傾向にあり、過去3年間で約4千人増加している。また、新たな在留資格の創設など、アジアを中心とする多様な国籍の外国人により一層の増加が見込まれる。</p> <p>本市では従来、外国人に対する日本語学習支援の場として、神戸国際協力交流センターのボランティアによるマンツーマンの「日本語・文化学習支援プログラム」や市内各所で実施されている「日本語教室」(約25箇所)、兵庫県国際交流協会による「日本語講座」等があり、それぞれの団体が日本語学習希望者への支援を行っている。</p> <p>しかし、神戸市全体としては、日本語学習が必要な外国人に十分に情報が届いていないことや在留外国人のニーズにあった日本語学習プログラムが十分に提供できていないといった課題がある。さらに各教室では、日本語教室コーディネーターの業務を担当する者が不在であるためボランティアの育成ができない、またボランティアの高齢化などによりボランティアが減少傾向にあるといった課題がある。</p> <p>さらには、日本語能力が十分でない外国人の増加に伴い、特に、外国人が地域社会で日本人とともに暮らしていくという面においては、日本語が全くわからないために、日本人や地域社会と接することが困難となり、日本の生活文化や習慣、制度を学ぶ機会を失し、地域内での共生が阻害されているという課題も顕在化している。そのため、在留外国人に対して一定の日本語能力を習得する機会を提供する総合的な仕組みの構築に3ヶ年にわたり取り組む。</p> <p>初年度は、総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーターを設置し、神戸市内の地域日本語教育に関わる要素を洗い出し、それぞれの要素に必要な機能をもつ機関・団体との連携を構築した。また、公的な日本語教育と地域日本語教室が持つ特性を活かした役割分担をするために、有資格者による初級日本語クラスの設置や、地域日本語教育コーディネーターによるボランティアのための相談業務を試行した。</p> <p>こうしたトライアルを通じて、さまざまな学習者が日本語学習の機会を得るためには、時間、場所、内容などに関して多様な日本語学習の場を設定することや、神戸市内全体のボランティアを対象としたボランティア養成講座やボランティアの相談業務を実施し、ボランティアの育成に向けた取り組みの必要性が明確となった。</p> <p>次年度以降は、これらの課題と必要性を踏まえ、公的機関と民間との適切な連携と役割分担の整理をさらに進めつつ、市内の教室が有機的に連携できるようなネットワークづくりの構築を中心に実施していく。</p>
4. 目的	<p>神戸市在住外国人とその家族が、日本語が十分でない場合、日本人や地域社会と接することが困難になり孤立すると考えられる。そこで、そのような人々が地域内での共生を阻害されないことがないように、公的機関と地域日本語教室との連携と役割分担のもと、在留外国人の自己実現を可能にするため、日本語学習の機会</p>

を提供する仕組みを構築していく。

3 事業の実施体制

(1) 実施体制 (図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。)

神戸市では、日本語教育事業を公益財団法人 神戸国際協力交流センター (K I C) で行っているため、同センターに事務局を設置し、事業の進め方は総合調整会議での協議を経て進めることとする。



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	尾形 文	神戸松蔭女子学院大学 兵庫日本語ボランティアネットワーク	非常勤講師 運営委員	総括コーディネーター 地域日本語教育コーディネーター
2	重信 楓	京進ランゲージアカデミー神戸校	非常勤講師	地域日本語教育プログラム推進員
3	井上 貴	神戸国際協力交流センター	運営課長	事務局

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

市内の地域日本語教育の体制を強化するために、市内の大学、日本語学校、日本語教室とのネットワークを構築する。また、潜在的な日本語学習希望者を発掘するために、外国人支援組織・団体、児童館、保育所、夜間中学等との連携を構築する。

4 令和2年度の事業概要

1. 令和2年度の実施目標				
必要な外国人が学習機会につながる仕組み及び標準的な学習プログラムの確立に向けて、日本語教育を必要とする外国人の実態、及び、外国人市民とのつながりを持つ組織、団体を通じた日本語教育のニーズの把握に引き続き努め、市内の日本語教室とのネットワークを構築する。				
2. 実施内容				
(取組1) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	今井 俊幸	神戸市海外ビジネスセンター	所長	市内の企業への外国人就労に関すること
2	鳥本 敏明	日本ベトナム友好協会兵庫県連	常任理事	ベトナム人と就労状況
3	安井 裕司	日本経済大学	教授	市内の日本語学校、留学生の状況把握
4	奥田 純子	コミュニカ学院	学院長	市内の日本語学校及び学習の状況
5	大下 和宏	中央区まちづくり課	課長	区内の外国人動向の把握、つなぐ仕組みの構築
6	辻 敏彰	教育委員会学校教育課	担当係長	外国人児童及びその保護者の状況
7	延原 臣二	東灘日本語教室	代表	日本語教室の状況
8	遠藤 知佐	兵庫県国際交流協会 多文化共生課	日本語教育指導員	日本語教育の指導方法
9	奥 優伽子	NPO 法人神戸定住外国人支援センター	日本語コーディネーター	日本語教室の状況
10	ズオン ゴック ク ディエップ	ベトナム夢 KOBE	代表	市内ベトナム人の状況
11	林 文勇	(公財)国際ロータリー第2680地区 米山奨学生学友会(兵庫)	副会長	外国人の就労や企業の支援の状況
12	荒井 秀行	阪神金属協同組合	事務局長	市内の企業への外国人就労に関すること
13	森本 幸治	東灘区まちづくり課	課長	区内の外国人動向の把握、つなぐ仕組みの構築
14	丹沢 靖	神戸市国際課	課長	行政的見地からの意見
15	尾形 文	神戸松蔭女子学院大学 兵庫日本語ボランティアネットワ	非常勤講師 運営委員	総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネー

		ーク		ターとして、事業の司令塔となり、各取り組みの企画・運営を行う。
16	重信 楓	京進ランゲージアカデミー神戸校	非常勤講師	事業全般にわたり、コーディネーターの補佐をする。
17	屋久 和夫	(公財) 神戸国際協力交流センター	総務部長	事務局
18	井上 貴	(公財) 神戸国際協力交流センター	総務部運営課長	事務局

②実施結果

実施回数	年 2 回
実施スケジュール	以下の 2 回実施した。 第 1 回 ● 日時：7 月 8 日(水)14：00～16：00 ● 出席者 17 名（含：KIC 専務理事、神戸市職員） 第 2 回 ● 日時：3 月 9 日（火）14：00～16：00 ● 出席者 18 名（含：KIC 理事長・専務理事、神戸市職員）
主な検討項目	第 1 回 ● 令和 2 年度の実施計画 ● すでに実施している取り組みの進捗状況（初級日本語 6 月クラス） ● オンライン授業の今後の活用の可能性を中心に意見交換 第 2 回の会合 ● 令和 2 年度の事業報告 ● 令和 3 年度の実地計画 ● 3 年目以降の神戸市の地域日本語教育への取り組みの必要性や行政に期待することなどについての意見交換

（取組 2）総括コーディネーターの配置

文化庁主催の「地域日本語教育コーディネーター研修」受講者の中から採用したコーディネーターが、令和元年から引き続き総括コーディネーターの業務にあたった。

○ 総括コーディネーターの主な業務

- 事業全体の企画（文化庁への申請書作成）、予算案作成
- 事業全体の運営（初級クラスの講師のシフト調整・初級クラス講師ミーティング開催・講師への参考文献配布・講師からの相談業務、夜間中学校夏季日本語教室コースデザイン）
- 関係者（担当の行政職員）への事業説明
- 事業の評価（内部の報告書作成、文化庁への報告書の作成）
- 内外の各種会議への出席（資料作成）
- 登録講師の確保

- 企業への講師紹介および担当講師からの相談業務
- ボランティア向け「地域型メルマガ」の配信
- 外部団体への訪問

(取組3) 地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組

地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入してください。

総括コーディネーターが兼務した。

○ 地域日本語教育コーディネーターの主な業務

- 各種ボランティア養成講座の講師
- 初級クラス、各種養成講座のチラシの作成
- 報告書用の各種データの作成（初級日本語クラス、養成講座など）
- 教室訪問・報告書作成

地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【()】

【重点項目】

(取組4) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

(1) 日本語教室訪問

昨年度より実施している市内 25 か所の地域日本語教室への訪問を引き続き実施した。今年度は、新型コロナの感染が拡大したことにより、残り 13 教室のうちの 2 教室しか訪問できなかった。2 つの教室からは、コロナ禍による対面授業の実施の難しさや、オンライン授業の実施状況などについて聴き取りした。(2020 年 2 月末現在 13 か所訪問済み)

(2) 日本語教室連絡会議の開催

日本語教室間のネットワークづくりと情報交換のために、KIC が中心となって、「市内日本語教室連絡会議」を実施した。

① 第 1 回

- 日時：9 月 15 日（火）13：30～15：30
- 参加人数：31 名

〈内訳〉

日本語教室・・・13 団体 21 名

KIC 及び神戸市・・・10 名

- 内容
 - 令和 2 年度の事業についての説明
 - 各教室からのコロナ禍の影響による日本語教室の開催状況について
 - 日本語教室補助金について

② 第 2 回

- 日時：2 月 24 日（水）13：30～15：30
- 参加人数：24 名

〈内訳〉

日本語教室・・・9 団体 18 名

KIC 及び神戸市・・・6 名

● 内容

- 令和 2 年度の事業内容の内、KIC 主催の初級日本語クラス及び、各種養成講座についての報告
- 令和 3 年度の KIC の名称変更と移転について

(3) 第 1 回市内日本語学習推進に関する連絡協議会

【実施箇所数】 1 か所（神戸市中央区）

【実施時間数】 計 1 時間

【具体的な実施内容】

- 実施日：9 月 10 日
- 出席団体：経営者協会、中小同友会、老人福祉施設、出入国管理局支局、商工会議所、機械金属工業会、国際交流協会
- 内容
 - ① 神戸市における日本語学習支援体制について
 - 総括コーディネーターが、日本語教育推進法に基づく国の動きを中心に、日本語教育の必要性などを説明した。
 - ② 意見・情報交換
 - KIC から 12 月クラスの広報を依頼
 - Zoom を活用したオンライン授業への質問（授業が可能な人数、メリットなど）
 - どこからでも参加が可能なオンライン授業に関しての制限についての質問
 - Youtube などの動画を活用した授業の配信をしてはどうか。（やり取りができない）

(4) 市内日本語教室への補助

今年度は、2 団体から申請があり、両団体に補助金を交付した。

(取組 5) 日本語教育人材に対する研修（研修受講者数：55 人）

(1) 【名称】 夜間中学校教員対象日本語教育研修

- 実施時間数：1 日 3 時間を 3 日、全 9 時間
- 開催日時：4/3、4/6、4/7、14：00～17：00
- 実施形態：対面（夜間中学校の教室にて）
- 受講者数：10 名（出席率 100%）
- 講師：本事業総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター尾形文
- 講座内容
 - 1 日目（4 月 3 日）

～「あなたの知らない日本語教育の世界」～

- 「国語教育」と「日本語教育」の違い
- 動画を見て気づいたことを言う：YouTube『日本語教育のミカタ』シーン1～シーン6
- この研修へのリクエスト

● 2日目（4月6日）

～「みなさんのリクエストから」～

- 3日に書いたリクエストをもとに
- アクティブラーニング

● 3日（4月7日）

～「自分の授業を改善しよう！」～

- クリティカルシンキング
- 会話指導のポイントについて考えましょう！
- 3つの日本語教育教材の紹介
- おまけ・・・外国語を体験：講師が作ったバオバブ語の名詞の導入

(2)【名称】オンライン支援のためのオンラインボランティア養成講座

- 実施時間数：1日2時間を3日、計6時間
- 開催日時：毎週木曜日（8/6、8/13、8/20）、13：30～15：30
- 実施形態：遠隔（Zoomミーティングを活用）
- 受講者数：16名（出席率94%）
- 講師：本事業総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター 尾形文氏
- 講座内容
 - 1日目 オンライン支援に関する約束事
Zoomミーティングの使い方（Zoomミーティングの機能の使い方を知る）
 - 2日目 対面活動とオンライン活動の違いを考えてみましょう。
対面と遠隔の、それぞれのメリット、デメリット
 - 3日目 オンライン活動をやってみよう

(3)【名称】地域日本語教室コーディネーター研修

- 実施時間数：1日3時間を4日、計12時間
- 実施形態：対面（出席率96%）
- 開催日時：隔週の水曜日（10/14、10/28、11/1、11/25）、13：00～16：00
- 受講者数：11名
- 講師：本事業総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター尾形文
- 講座内容

- 1日目 地域日本語教育コーディネーターってなに？
- 2日目 クリティカルシンキングを使ってみましょう！
- 3日目 問題解決のプロセスを発表しましょう！
- 4日目 アサーティブな人を目指しましょう！

(4)【名称】日本語ボランティアのためのブラッシュアップ講座

同一の内容で2回実施した。

- 実施時間数：1日3時間7日、計21時間
- 開催日時
 - 第1回 毎週火曜日（11/10、11/17、11/24、12/1、12/8、12/15、12/22）、13：00～16：00
 - 第2回 毎週木曜日（1/7、1/14、1/21、1/28、2/4、2/18、2/25）、13：00～16：00
- 受講者数
 - 第1回 20名（出席率93%）
 - 第2回 7名（出席率94%）
- 講師：本事業総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター尾形
- 講座内容
 - 1日目 こんなボランティアになりたい
 - 2日目 日本語教育史からみる自己主導型学習
 - 3日目 教室活動「話す」「聞く」
 - 4日目 教室活動「書く」「読む」
 - 5日目 アクティブラーニング その1
アクティブラーニングを知る
 - 6日目 アクティブラーニング その2
『まるごと』を使って
 - 7日目 私が描く理想の日本語ボランティア

(取組6) 地域日本語教育の実施

【○】 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育

【 】 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

実施箇所数	3 か所	受講者数	204 名
活動 1	<p>【名称】 オンライン初級日本語6月クラス</p> <p>【目標】 各レベルとも、それぞれの日本語能力を駆使して、日常場面でのコミュニケーションの実践力を身につけることを目標とする。</p> <p>○ 初級2：JF日本語教育スタンダードのA2前半レベルを目指す。</p>		

- ごく基本的な情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。
 - 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について情報交換に応ずることができる。
- 初級3：JF日本語教育スタンダードのA2後半レベルを目指す。
- 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

【実施回数】

- 昼クラス・・・23回（1回2時間、全46時間）
- 夜クラス・・・23回（1回1.5時間、全34.5時間）

【受講者数】 29人（出席率79%）

【実施場所】

基本的に講師が自宅からホストになり Zoom ミーティングを開催した。が、1名の講師については家庭の都合により自宅からの授業開催が困難であることから、KIC から Zoom ミーティングを開催した。

【受講者募集方法】

- KIC のホームページに募集案内を掲載
- 兵庫県国際交流協会、市内の日本語教室、外国人コミュニティー団体、市教育委員会関係、ハローワークヘチラシを配布（メール、郵送）

【内容】

- 開催クラス
 - 初級2、初級3を開催

昨年度は、ゼロ初級対象の「初級1」も開催したが、6月クラスに関しては急遽オンライン授業に変更したため、ゼロ初級の学習者への対応が困難なのではないかということから初級1は開催しなかった。
- メイン教材
 - 初級2・・・『まるごと 日本のことばと文化 初級1 A2』（2014）三修社
 - 初級3・・・『まるごと 日本のことばと文化 初級2 A2』（2014）三修社
- 授業の進め方

各レベルとも上記の教材をもとに、講師は学習者の運用力を伸ばすことを意識し、授業を展開した。本講座は予期せぬオンライン授業ということで、講師には画面で共有する資料の見え方や、学習者への声の掛け方、自身の表情や振る舞いについて注意しながら授業を進めるようお願いした。また、対面授業に比べて、学習者の態度や表情などの情報も少なくなることから、対面授業以上に学習者に注意を払うよう伝えた。

【開始した月】 6月

【講師】「日本語教師」6人

【関係機関との連携】 特になし

	標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 2	<p>【名称】 オンライン／対面初級日本語 9 月クラス</p> <p>【目標】</p> <p>各レベルとも、それぞれの日本語能力を駆使して、日常場面でのコミュニケーションの実践力を身につけることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 初級 1：JF 日本語教育スタンダードの A1 レベルを目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ● もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるのなら簡単なやり取りをすることができる。 ● 日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。 ● 自己紹介、他己紹介ができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問したり、答えたりできる。 ○ 初級 2：JF 日本語教育スタンダードの A2 前半レベルを目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ● ごく基本的な情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 ● 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について情報交換に応ずることができる。 ○ 初級 3：JF 日本語教育スタンダードの A2 後半レベルを目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。 <p>【実施回数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ (オンライン・対面とも) 昼クラス 23 回 (1 回 2 時間、全 46 時間) ○ (オンライン・対面とも) 夜クラス 23 回 (1 回 1.5 時間、全 34.5 時間) <p>【受講者数】 80 人 (2 か所+Zoom ミーティング) (出席率 60%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昼オンライン・・・26 人 ○ 昼対面・・・16 人 ○ 夜オンライン・・・35 人 ○ 夜対面・・・3 人 <p>【実施場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オンライン <ul style="list-style-type: none"> ● 昼クラス、夜クラスとも、講師が自宅からホストになり Zoom ミーティングを開催 ○ 対面 <ul style="list-style-type: none"> ● 昼クラス・・・KIC (神戸市中央区) ● 夜クラス・・・ふたば国際プラザ (神戸市長田区)

	<p>【受講者募集方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● KIC のホームページに募集案内を掲載 ● 兵庫県国際交流協会、市内の日本語教室、外国人コミュニティー団体、市教育委員会関係、ハローワークへチラシを配布（メール、郵送） <p>【内容】</p> <p>○ 開催クラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 初級 1、初級 2、初級 3 を開催 ● オンライン 6 月クラスで開催しなかった初級 1 についても、講師がオンライン授業に慣れたことで、9 月クラスでは開催することができた。 <p>○ メイン教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 初級 1・・・『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1』（2013）三修社 ● 初級 2・・・『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2』（2014）三修社 ● 初級 3・・・『まるごと 日本のことばと文化 初級 2 A2』（2014）三修社 <p>○ 授業の進め方</p> <p>各レベルとも上記の教材をもとに、講師は学習者の運用力を伸ばすことを意識し、授業を展開した。</p> <p>【開始した月】 9 月</p> <p>【講師】 「日本語教師」 9 人</p> <p>【関係機関との連携】 特になし</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
活動 3	<p>【名称】 オンライン／対面初級日本語 12 月クラス</p> <p>【目標】</p> <p>各レベルとも、それぞれの日本語能力を駆使して、日常場面でのコミュニケーションの実践力を身につけることを目標とする。</p> <p>○ 初級 1：JF 日本語教育スタンダードの A1 レベルを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるのなら簡単なやり取りをすることができる。 ● 日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。 ● 自己紹介、他己紹介ができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問したり、答えたりできる。 <p>○ 初級 2：JF 日本語教育スタンダードの A2 前半レベルを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ごく基本的な情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 ● 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について情報交換に応ずることができる。 <p>○ 初級 3：JF 日本語教育スタンダードの A2 後半レベルを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉

	<p>で説明できる。</p> <p>【実施回数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ (オンライン・対面とも) 昼クラス 23 回 (1 回 2 時間、全 46 時間) ○ (オンライン・対面とも) 夜クラス 23 回 (1 回 1.5 時間、全 34.5 時間) <p>【受講者数】 82 人 (1 か所+Zoom ミーティング) (出席率 60%)</p> <p>〈内訳〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昼オンライン・・・20 人 ● 昼対面・・・・・・25 人 ● 夜オンライン・・・37 人 <p>【実施場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オンライン <ul style="list-style-type: none"> ● 昼クラス、夜クラスとも、講師が自宅からホストになり Zoom ミーティングを開催 ○ 対面 <ul style="list-style-type: none"> ● 昼クラス・・・KIC (神戸市中央区) <p>【受講者募集方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ KIC のホームページに募集案内を掲載 ○ 兵庫県国際交流協会、市内の日本語教室、外国人コミュニティー団体、市教育委員会関係、ハローワークへチラシを配布 (メール、郵送) <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ メイン教材 <ul style="list-style-type: none"> ● 初級 1・・・『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1』(2013) 三修社 ● 初級 2・・・『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2』(2014) 三修社 ● 初級 3・・・『まるごと 日本のことばと文化 初級 2 A2』(2014) 三修社 ○ 授業の進め方 <p>各レベルとも上記の教材をもとに、講師は学習者の運用力を伸ばすことを意識し、授業を展開した。</p> <p>【開始した月】 12 月</p> <p>【講師】 「日本語教師」13 人</p> <p>【関係機関との連携】 特になし</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：</p>
活動 4	<p>【名称】 夜間中学校夏季日本語教室</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で考えて、自分のことばで話す。 <p>【実施回数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第 1 期：5 回 (7 月 27 日、28 日、29 日、30 日、31 日)

○ 第2期：5回（8月20日、21日、24日、25日、26日）

【実施場所】

神戸市立丸山中学校西野分校

【受講者募集方法】

夜間中学の教員が生徒に周知した

【内容】

○ 授業時間

● 夜間中学校の授業時間に合わせて以下のように実施した。

- 1時間目 18：20～18：55
- 2時間目 19：00～19：35
- 3時間目 19：40～20：15

○ 教材

夜間中学校での通常の授業では『みんなの日本語』を使用しているが、運用力の強化のため既習項目を中心に『できる日本語』（以下、『できる』）をメイン教材として授業を進めた。

○ 内容

● Aクラス（7人）

『できる』L1～L5

● Bクラス（6人）

1学期の復習をし、生徒たちの定着がよくない項目について授業を行った。

- あげもらい
- 仮定条件、確定条件
- ～んですか
- 可能動詞

【開始した月】8月

【講師】「日本語教師」4人

【関係機関との連携】

○ 以下を、夜間中学が担当した。

- ① 会場の確保
- ② 授業で使用する機器の準備
- ③ 受講者への周知

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

活動5	<p>【名称】企業との連携による日本語クラス</p> <p>【学習者数】3人</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話している相手との関係を考えて、場面に応じた話し方（待遇表現等）を選び、許可を求めた、相談したりできる。 ○ 困ったことや分からないことがあった時に、状況を説明し、助けを求めることができる。 ○ 休憩時間や食事会などの時に、同じ会社の人たちと雑談を続けることができる。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場で遭遇する場面に適合した日本語表現を練習する。 ○ 場面や相手に応じたことばの使い方、話の進め方を学ぶ。（本格的な会話活動に入る前に第3回では応答やクッションことばについて学ぶ） ○ ロールプレイを通して言語だけではなく、態度や表情にも配慮した自然なやり取りを学ぶ ○ 必要に応じて文法項目の復習をする。 <p>【使用テキスト】</p> <p>メイン教材：初中級レベル『ロールプレイで学ぶビジネス日本語』スリーエーネットワーク</p> <p>補助教材：『はたらくための日本語』JICE</p> <p>【開始した月】2月</p> <p>【講師】「日本語教師」1人</p> <p>【関係機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 神戸市長田区の企業と連携（企業名の掲載は控える） ○ 以下を、企業が担当した。 <ul style="list-style-type: none"> ① 会場の確保 ② 受講者への周知 ③ 受講者からのニーズの聞き取り ④ 授業での会話練習のパートナーとして、社長、社長の奥さん、工場長などが出席 <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
その他の取組	
<p>(1) 【名称】「地域型メルマガ」の配信</p> <p>【実施回数】4回、購読登録者数72人</p> <p>【目的】</p> <p>日本語ボランティア養成の一環として、ボランティアたちが地域日本語教育についての知識を広め、活動方法の振り返りや学習者への関心を強めるきっかけとなるような内容を配信する。</p> <p>【具体的な実施内容】</p>	

- 第1便 (7月21日)
- 第2便 (8月21日)
- 第3便 (9月25日)
- 第4便 (2月12日)

(2)【名称】(仮)三宮にほんごプラザのウェブサイト作成

地域日本語教育専用のウェブサイトを作成。現在、一部をアップしているが、本格稼働は4月。

(3)【名称】「コロナ禍での外国人材雇用セミナー」での本事業の広報

上記セミナーにおいて、本事業が実施する企業との連携による日本語クラスについての広報を行った。

- 日時：2月4日(木) 15:00～17:00
- 場所：神戸商工貿易センタービル14階会議室からZoomウェビナーにて開催
- 主催：神戸市、ひょうご・神戸国際ビジネススクエア
- 内容
 - 「コロナ禍における外国人材マーケットの現状」
 - ・(株)パソナ グローバル事業本部 李ヨンギョン氏
 - 「コロナ禍での在留資格の最新情報」
 - ・宮本行政書士事務所 宮本健吾氏
 - 「日本語教師の企業への派遣サービス」
 - ・KIC 総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター 尾形文

3. 効果

(1) 効果

① 定量評価

- 総合調整会議：前年度(2)回 当年度(2)回
- 総括コーディネーター配置数：前年度(1)人 当年度(1)人
- 地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度(1)人 当年度(1)人(2年とも総括コーディネーターが兼務)
- 実施した日本語教育人材に対する研修：(1)回(1箇所) 当年度(5)回(1箇所+Zoomミーティング)
- 実施した日本語教室：前年度(2)回(2箇所) 当年度(4)回(4箇所+Zoomミーティング)

② 定性評価

(i) 連携機関の広がりについて

- 日本語教室との連携
 - 教室訪問

前年度の11教室へ訪問に加え、今年度2教室を訪問し、市内25教室のうち13教室への訪問を終えた。実際に教室を訪問したことで教室の学習環境や活動の様子などを知ることができ、行政の役割としての、今後の日本語教室やボランティアに向けた支援が少しずつ明確になってきている。残り11教室への訪問は次年度実施する。

□ 教室連絡会議

前年度の実施は1回だったが、今年度は2回実施した。年間の開催数を増やしたことで、日本語教室間のつながりができ、ボランティアや学習者が教室間を行き来する可能性が示された。それにより学習者にとっては学習機会、またボランティアにとっては活動の場の増加につながる。

● 夜間中学校との連携

□ 教員対象日本語教育研修

今年度初めて実施した。日本語教育に関する知識がないまま日本語非母語話者の生徒たちに日本語教育を実施している中学校教員にとっては、国語教育と日本語教育の違いを知ってもらっただけでも収穫があったということが、受講者からの感想からわかった。

□ 夏季日本語教室（有資格の日本語教師が担当）

夏季日本語教室には13人の夜間中学の生徒が出席し、熱心に授業を受け、日本語での発話が徐々に増えたことが、担当講師からの授業報告に記載されていた。また、上の研修に参加した教員たちも自主的に授業を見学したとの報告があった。教員たちが日常の授業を見直すきっかけにもなったようである。

(ii) 新たな連携機関と連携した内容

● 「取り組み4（3）」に掲載した第1回市内日本語学習推進に関する連絡会議

本会議は今年度初めて実施した。そこに出席した7団体は、これまでは直接日本語教育に関わるものがなかったため、今回、日本語学習者や神戸市の地域日本語教育事業の存在を知らせることができた。参加者からは、潜在的学習者に関する情報や、日本語学習に関するさまざまな意見や質問を頂いた。また、今後の初級日本語クラスの宣伝への協力も得られた。

● 企業との連携

今年度初めて、企業から社員への日本語教育の依頼があり、有資格の講師1名を派遣した。本クラスは開設して間もないため、学習者の学習効果はまだ見られない。しかし、社長から次のような話を伺ったことで、学習者への効果とは別に、日本人へもなんらかの効果があることがわかった。

□ 授業の会話パートナーとして参加したことで、外国人がどのように日本語を習うのかを知ることができた。

□ これまでは、外国人従業員と世間話的な会話をほとんどしたことがなかったが、授業に参加したことで、彼らが国でどんな生活をしてきて、将来をどのように考えているかを知ることができた。それにより、会社側もそれなりに彼らの生活を考えないといけないと思った。

(iii) どのような体制を構築できたか

● 有資格の日本語教師による初級日本語クラス（6月クラス、9月クラス、12月クラス）

□ 登録講師数が増えた。

前年度（4人）、今年度末（20人）

これにより、今後、初級日本語クラスの拡充が可能になった。

□ 講師たちが自主的に情報交換会を実施した。

初級日本語クラスの質の向上につながる。

● 日本語教室同士の連携の強化

□ 市内日本語教室連絡会議の回を重ねることで、市内全域の学習者やボランティアの動向を日本語教育全体が共有できた。

● 「日本語教室コーディネーター研修」

これまでコーディネーターが不在だった教室にコーディネーターの役割を担う人材が生まれた。また、すでにコーディネーターをしている人も本講座を受講したことにより、コーディネーターとしての経験を新米コーディネーターに伝授する機会となった。

● 企業との連携による日本語クラスの実施

今回の取り組みを検証することで、今後の企業内での日本語クラスのコースデザインをする際の参考になると考えられる。

(iv) 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

(ア) 事業実施にあたっての周知・及び広報

- 各取り組みについては、その都度、HPや郵送でチラシを配布した。今年度ハローワークに初級日本語クラスのチラシを置かせてもらったことが学習者数の増加につながった。
- 事業全体については、域内の兵庫県国際交流協会のシンポジウムで事業について発表することで、神戸市内だけではなく兵庫県内の地域日本語教育に関わる人たちに周知できた。
- 文化庁主催の「日本語教育大会」で神戸市の地域日本語教育体制整備事業について発表をしたことで、全国に神戸市の事業内容を周知する機会を得た。また、専門家からの意見を頂いたことで、来年度に向けて改善するヒントを得た。

(イ) 事業成果の地域への発信

- 総合調整会議において事業成果を発表したことで、構成員が関わる組織や団体を通して、地域に事業が伝わった。
- 市内日本語教室連絡会議で事業成果を発表した。それにより有資格の日本語教師による初級クラスの認知度が上がり学習者数の増加につながった。また、各種のボランティア養成講座の実施報告をしたことで、次年度の開催を希望する声が寄せられた。

4. 課題と今後の展望

(1) 課題と困難な状況への対応方法

● 講師の確保（数、質）

〈質〉

➤ 初級日本語クラスの有資格の日本語教師

登録講師の全員が日本語学校での授業経験しかないため、地域型の学習者を知ることから学んでほしい旨、コーディネーターから伝えた。また、以下をすることで、教師たちの成長につながることを期待している。

- 地域型や日本語教育の最新情報に関する参考文献の紹介
- 文化庁などから送られてくる研修会や講師養成講座を転送
- 講師ミーティングでの地域型に関する話などにより、講師たちの気づきを促す。
- コーディネーターが配信しているボランティア向けのメルマガの紹介

▶ 日本語ボランティア

- 基本的な目的を「自分で考える日本語ボランティアの育成」とし、それぞれのボランティアが自分に足りない能力やスキルを埋めることができるよう、各種の養成講座やメルマガの配信を行った。
- どの養成講座も受講者が「考える」時間の配分を多くするよう配慮した。そういう時間を持つことで、自分の日本語支援に向き合い、問題点を発見し、自分なりの理想的なボランティア像を描くことにつながる。
- 養成講座で他の受講者の発言を聴くことで自分の考えを修正する機会となったという感想が多くあった。
- 新型コロナウイルスの感染拡大によりオンライン支援という新たな手法をボランティアたちも知る必要性が高まった。そこで8月に Zoom ミーティングの活用方法を中心にした養成講座を実施した。これによりオンライン支援ができるボランティアを、少人数だが増やすことができた。今後は受講修了者たちから他のボランティアへ教えていくことで、地域日本語教室でのオンライン支援の場の増加が期待できる。

〈数〉

▶ 初級日本語クラスの有資格の日本語教師

- コーディネーターの知り合いの日本語教師に登録を呼びかけることから始めたが、その後、登録講師の知り合いが登録をしてくれ芽づる式に増えてきた。現在の授業数では、現時点の登録講師数で賄える。

▶ 日本語ボランティア

- 日本語教室によっては、ボランティアの増員を課題にしているところがあるため、養成講座の受講者たちには、講座終了時に神戸市内の日本語教室の存在を周知している。それにより、2つの教室を掛け持ちするボランティアたちも増えてきた。

● オンライン

- 突然浮上してきたオンライン授業に関して、有資格の日本語教師たちには、オンライン授業の注意点を講師ミーティングで説明した。(顔出しを強要してはいけない。対面以上に疲れやすいため休憩をとる、画面上で共有する資料に関する配慮(見やすさ)、など)
- オンライン支援をしたことがないボランティアのために、オンライン支援のための養成講座を実施した。(受講者からの感想などは、別添の資料を参照のこと)

● 学習評価の方法

- 学習者の自己評価を実施した。メイン教材に掲載されている Can-do リストを活用し、毎回の授業後と復習日に評価してもらった。コースの最初の数回は記入に不慣れな学習者たちも、次第に記入に慣れてきたようであった。今年度は教科書の Can-do を活用したが、次年度は「評価とはなにか」ということから再考し、学習評価ツールを作成する予定である。

(2) 今後の展望

● 初級日本語クラスを担当する有資格の講師の質の向上

- 今年度本格的に初級日本語クラスを実施するにあたり、有資格の日本語教師の登録数を増や

した。しかし、教師たちは日本語学校の留学生への日本語教育しか経験がなかったため、多様な学習者への対応に苦慮する様子が授業報告からわかった。また、メイン教材の『まるごと』を使用したことがある教師が数名しかおらず、日本語学校での文型シラバスとオーディオリンガルに慣れている教師たちからは、教材の使い方に対する不安も授業報告に記載されていた。今年度は上記への対応として、日本語教育のパラダイムシフトやコミュニカティブ・アプローチなどに関する文献の紹介をした。また、中には個人的に授業に関する相談に来る講師もいた。来年度も、引き続き、授業改善のための文献の紹介や相談業務を実施する。

- ボランティア養成講座の実施

- 今年度は3種類4回の養成講座を実施した。当初は外部の講師にも加わっていただくことになっていたが、新型コロナウイルスの影響もあり、すべての講座の講師をコーディネーターが担当した。来年度はさらに講座数を増やすことと、多様な講師の見解を取り入れることの重要性から、外部の日本語教育関係者にも養成講座の講師を依頼する予定である。

- 総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーターの兼務

- 本事業では、初年度から総括コーディネーター兼が地域日本語教育コーディネーターを兼務していることから、結果的に多岐にわたる膨大な業務を担当している。本年度、事業を拡充するため地域日本語教育プログラム推進員1名を増員したが、事業の拡充に人員が追いつかず、コーディネーターの業務量を減らすことにはならなかった。次年度はさらに1名の地域日本語教育プログラム推進員を増員し、これまでやり残した学習評価ツールの作成などにコーディネーターが集中できる体制を整える。

- 潜在的学習者の掘り起こしに関して

- 初級日本語クラスの学習者数は増加したが、依然として市内には潜在的な日本語学習希望者が存在していると考えられる。そもそも、誰が該当するのかさえも不明であることから、この課題が解決に近づいているかどうかはわからない。しかし、これまでは連携していない組織や団体などを探し当てることから初め、今後も初級日本語クラスの学習者数の増加を目安に引き続き新たな学習者を発掘していく。

- 学習評価ツールの作成

- 今年度はメイン教材のCan-doを学習評価ツールとして活用した。地域型の学習者は、家庭の事情や仕事などにより学習の場に通えなく可能性が高いことから、自律的に日本語学習をする能力を高める必要がある。初年度より事業計画の中に入れながらも実現できなかったポートフォリオのような評価ツールの作成を次年度はコーディネーターが中心となり実行する。そのために、すでに外部の日本語教師たちに協力を依頼し承諾済みである。

【参考資料】

- ① 養成講座のアンケート

【神戸市】オンライン支援のためのオンラインボランティア養成講座 アンケート結果と受講者の振り返り